

茨城県における新規就農者

令和8年9月
関東農政局 茨城県拠点

【本資料について】

現在、茨城県の基幹的農業従事者は、65歳以上が69.5%、49歳以下が13.2%、39歳以下は5.3%と著しくアンバランスな状況であり、持続可能な力強い農業を実現していくためには、農業の内外からの新規就農を促進し、世代間バランスの取れた農業構造にしていくことが重要となっています。

そこで、茨城県内の新規就農者の状況を把握し、就農形態（自営（親元）就農、新規参入、雇用就農）ごとに統計データ等を活用して特徴等を整理してみました。

今後の新規就農者の確保対策の一助になれば幸いです。

目 次

はじめに

- 1 茨城県の新規就農者の推移
 - 2 新規就農者の状況（令和6年度）
 - 3 新規就農者の就農形態別の特徴
 - 4 各就農形態における特徴
 - 5 新規就農者の確保についての考察
 - 6 課題解決に向けた主な対策事業
-

（参考）新規就農者アンケート結果（１）～（４）

【はじめに】

茨城県内の新規就農者の状況を把握するため、県が取りまとめている就農青少年等調査結果を基に、どの市町村で新規就農者が多いのかを整理してみました。

就農青少年等調査結果とは

本調査は、各年度（4月1日～3月31日までの間）を調査対象期間とし、調査対象年齢が16歳以上45歳未満で年度内に新たに就農した者を対象として次年度の4月1日現在（以下、基準日という。）で農林事務所が整備しているデータ等を基に、茨城県農林水産部農業技術課が取りまとめたもの。

【用語説明】

新規学卒者

調査対象期間に学校を卒業し就農した農家子弟で、基準日に就農している者

Uターン就農者

調査対象期間中に他産業から転向し就農した農家出身者で、基準日に就農している者（主として農業以外の職業に6か月以上従事していた者）

新規参入者

①調査対象期間中に農業経営基盤を全く持たず、新たに農地の借入又は取得した等により就農した非農家出身者で基準日に就農している者、または、②農家出身の者が実家とは別に農業経営を開始し、基準日に就農している者

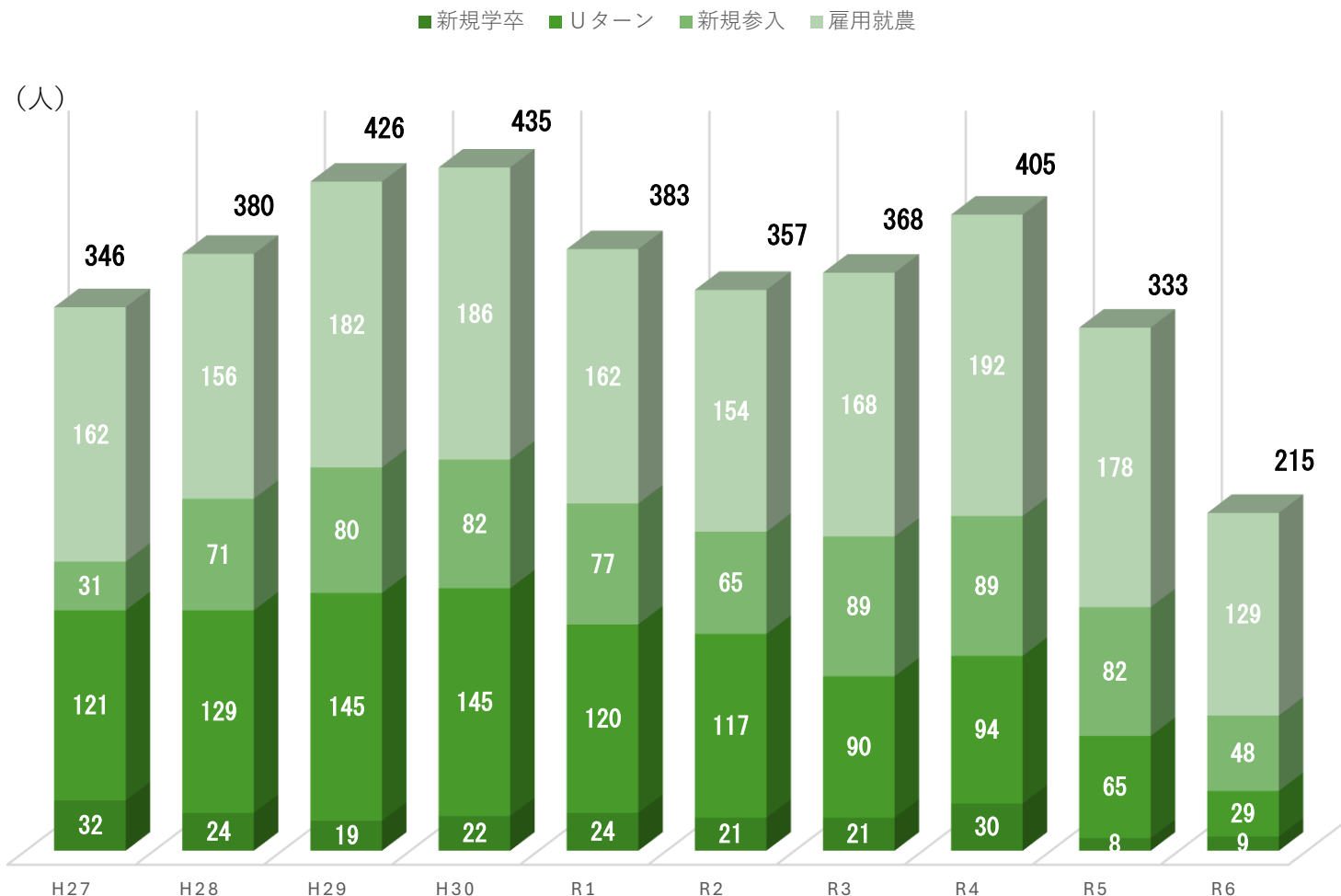
新規雇用就農者

調査対象期間に農業法人や個人経営体との間で期間の定めのない世紀の雇用契約を締結し就農した者で基準日に就農している者（パートタイマー、アルバイト、外国人技能実習生は除く）

1 茨城県の新規就農者数の推移

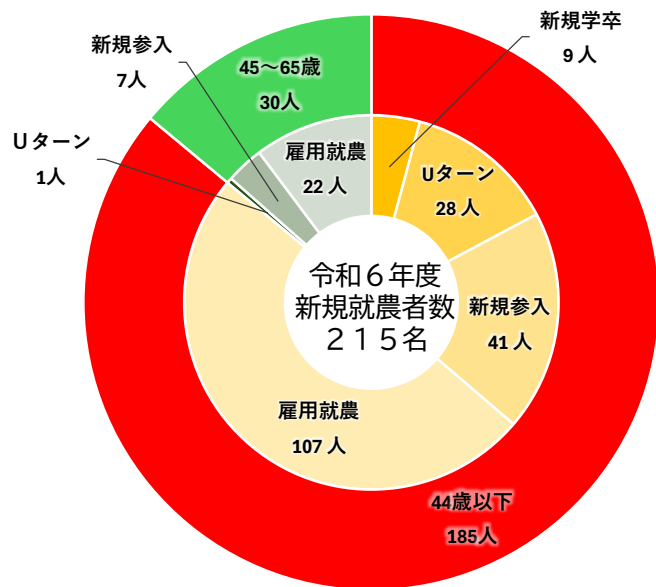
茨城県における新規就農者は、毎年度350～400名程度で推移していましたが、令和6年度は215名で前年度に比べ約35%減少しています。

就農時の状態をみると、雇用就農は各年度とも新規就農者の4割以上を占めて1番多い一方、令和6年度の新規参入は前年度までの80名程度から48名に、Uターンも29名で5年前の四分の一以下に減少、また、新規学卒者は近年20名前後で推移していましたが、令和5年度と6年度は10名以下となっています。



資料：令和7年度就農青少年等調査結果（茨城県調べ）

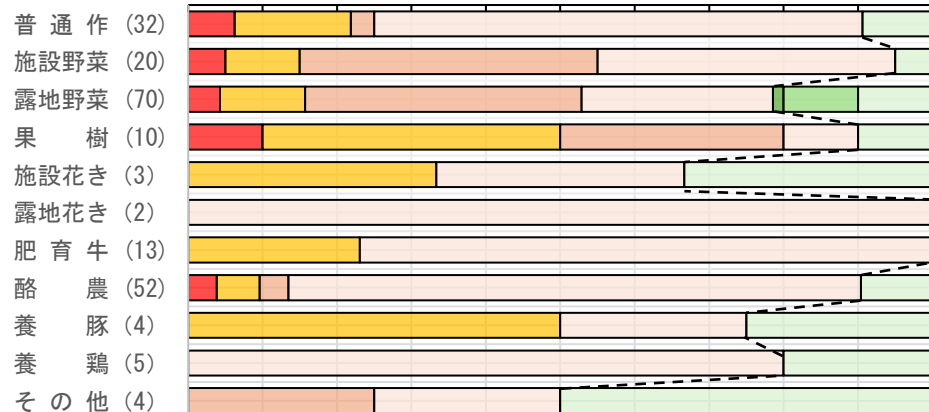
2 新規就農者の状況（令和6年度）



茨城県の令和6年度新規就農者(215名)の状況をみると、44歳以下が185名(新規就農者の86%)となっており、内訳をみると、雇用就農が107名(44歳以下の58%)、次いで新規参入が41名(同22%)、以下、Uターンが28名(同15%)、新規学卒が9名(同5%)となっています。

一方、45～65歳は30名で、内訳は雇用就農が22名(45～65歳の73%)、次いで新規参入が7名(同23%)、Uターンが1名(同3%)となっています。

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■16-44(新規学卒) ■16-44(Uターン) ■16-44(新規参入) ■16-44(雇用就農)

■45-65(Uターン) ■45-65(新規参入) ■45-65(雇用就農)

注：営農類型の（ ）内は新規就農者数である。

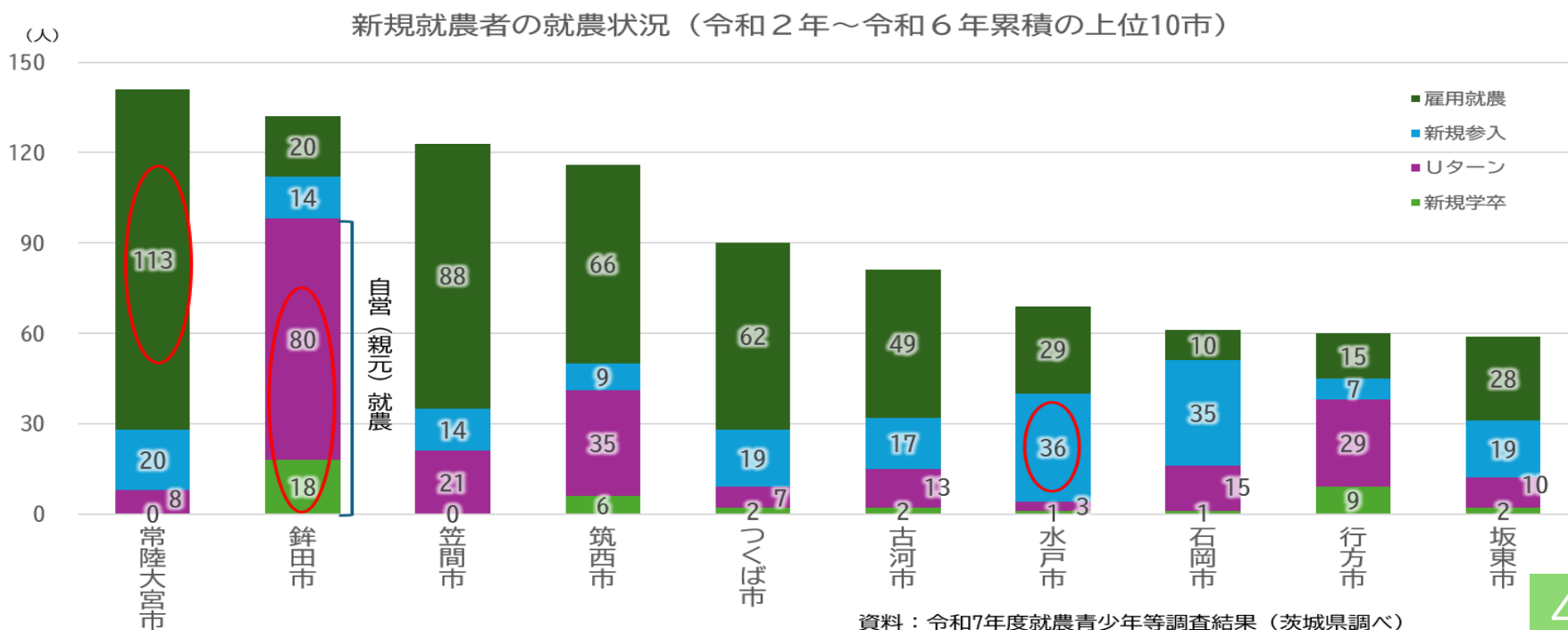
令和6年度新規就農者を営農類型別にみると、耕種部門では露地野菜の70名(新規就農者の33%)、次いで普通作の32名(15%)、施設野菜の20名(同9%)となっており、上位を耕種部門が占めています。

一方、畜産部門では、酪農が52名(同24%)、肥育牛が13名(同6%)となっており、そのほとんどが雇用就農となっています。

3 新規就農者の就農形態別の特徴

新規就農者は、年により変動が大きいいため、就農青少年等調査結果を基に、令和2年～令和6年までの5年間における就農形態（①自営（親元）就農、②新規参入、③雇用就農）ごとの1番多い市町村は次のとおりです。

- ①自営（親元）就農・・・・・・・・・・・・・銚田市
- ②新規参入・・・・・・・・・・・・・水戸市
- ③雇用就農・・・・・・・・・・・・・常陸大宮市



4 各就農形態における特徴

1 自営（親元）就農

- ・ 就農しながら設備や営農技術を継承でき、販路も確立されているため、**失敗するリスクが低い**
- ・ 地域農業の維持・発展のためには、スマート農業等による規模拡大を目指すための取り組みが必要
- ・ 一方で、農家子弟が後を継ぎたいと思うような**儲かる農業や魅力ある経営体が対象のため限定的**

2 新規参入

- ・ 土地・労働（技術）・資本の全てを装備する必要がありハードルが高いことから、**第3者継承や遊休資産の活用などの支援も必要**
- ・ 地域全体で目指すべき農業を明確にし、実践・PRすることで、共感し興味のある者が増える
- ・ 地域全体でサポートするなど**参入しやすい環境づくりが必要**

3 雇用就農

- ・ 就農希望者にとって「まずは雇用から」といった気持ちで就農しやすいため、技術を習得しながら**独立就農を目指すという者にとっての登竜門**となる
- ・ 一方で、勤務条件や就労環境等を整えた**雇用の受け皿となる法人等の確保が必要**

5 新規就農者の確保についての考察

- 自営（親元）就農や雇用就農は、限られた地域や経営体は可能であるが、**地域農業の維持・発展のためには、新規参入者や雇用就農からの独立就農者の確保が必要。**
しかしながら、新規参入や独立就農は初期投資がかかりハードルが高いことから、後継者のいない経営体への**第3者継承も検討していく必要**があると考えられる。
- 新規就農者の確保は、地域の生産環境にも大きく左右されることから、1つの就農形態のみを推進するのではなく、**地域や農家の意向等を踏まえつつ、それぞれの就農形態を組み合わせながら取り組む必要**があると考えられる。
- 一方で、地域農業の魅力を知ってもらい、**当該地域で農業をやってみたいという興味を持った者を増やすことが重要**ではないか。

6 課題解決に向けた主な対策事業

【令和8年度農林水産関係予算（概算）】

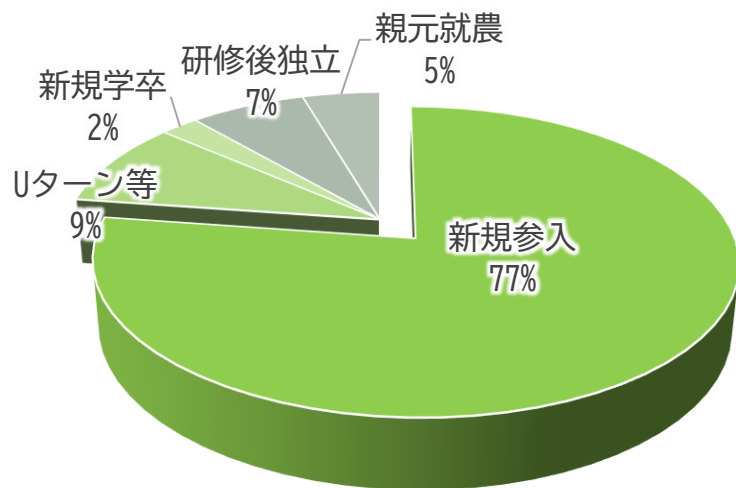
主な対策事業	ポイント
新規就農者育成総合対策	・ 経営発展のための機械・施設の導入等を地方と連携して支援 ・ 就農に向けた研修資金、経営開始資金の交付 ・ 誘致環境の整備、農業教育の高度化、人材の呼び込みへの支援
雇用就農の総合的な推進	・ 農業法人等による就農希望者の新規雇用、働きやすい環境づくり、他産地・他産業との連携による労働力確保、労働関係法制の見直しに対応するための体制整備等を総合的に推進
地域農業構造転換支援対策	・ 農地を引き受ける担い手が経営改善に取り組む場合に必要な農業用機械・施設の導入を支援 ・ 認定新規就農者（65歳未満）の早期の経営発展に必要な農業用機械・施設の導入を支援
大区画化等加速化支援事業	・ 法人等の農業者が自ら行う畦畔除去等の簡易整備による農地の大区画化等の取組を支援
スマート農業技術活用促進集中支援プログラム	・ スマート農業技術の活用と新しい生産方式の導入の取組に対し、予算上の優遇措置等を設定し、集中的に支援

(参考) 新規就農者アンケート結果 (1)

令和7年度に関東農政局茨城県拠点において、新規就農者（就農5年以内）に対してアンケートを実施しましたので、その中間集計結果の一部を紹介します。

- ・調査対象者：新規就農者（44件）
- ・調査方法：意見交換時のアンケート調査

1 就農形態と就農理由

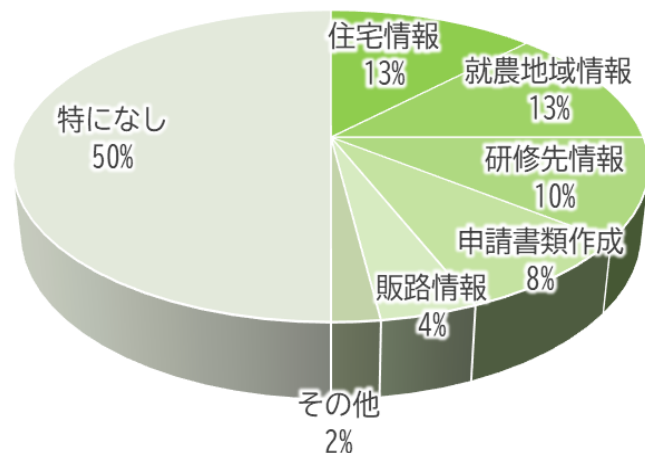


Q 主な就農理由

- ・自分で育てた野菜を販売したいと思った（新規参入）
- ・TV番組で農業研修制度を知ったことがきっかけ（新規参入）
- ・幼少期から農村に親しみ、妻も農業に憧れ（新規参入）
- ・将来を考えて農家になった（新規参入）
- ・まとまった農地を確保できた（Uターン）
- ・知人の紹介（研修後独立）
- ・家業承継（親元就農）

(参考) 新規就農者アンケート結果 (2)

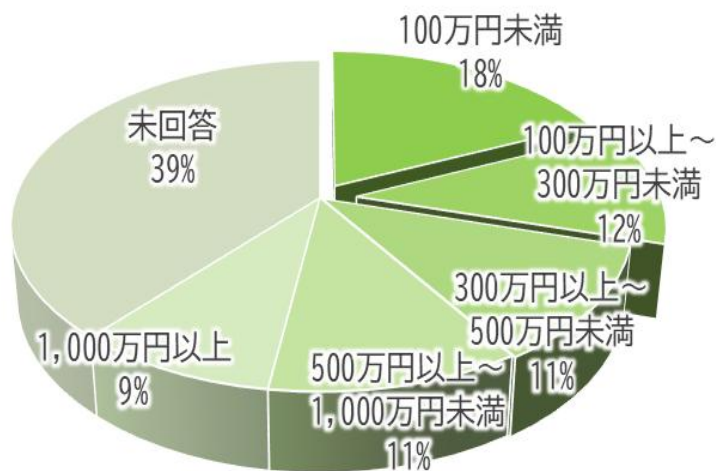
2 情報がなくて苦労したこと



※意見要望

- ・農地中間管理機構を経由した農地賃借について、さらに周知をしてほしい
- ・県外出身者が新規就農する場合、土地勘が無いので仲介が必要

3 就農のための自己資金

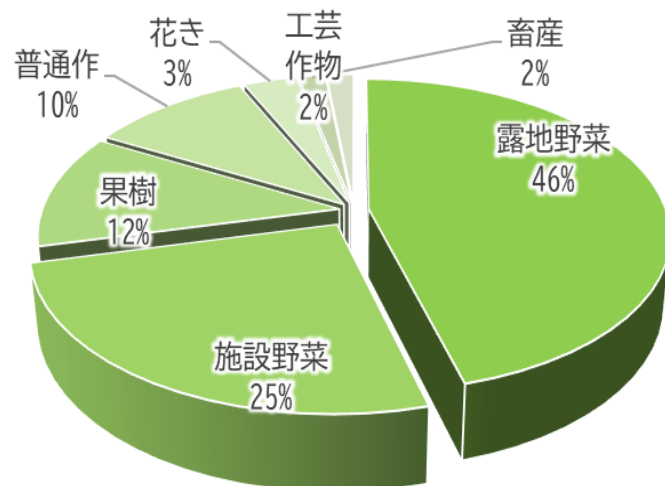


※意見要望

- ・就農準備資金の前年世帯収入額800万円くらいまで世帯収入額の上限変更を望む
- ・就農準備金や経営開始資金は資材等物価上昇に応じていない
- ・国のHPでの補助金関連情報が難しく、理解が困難である

（参考）新規就農者アンケート結果（3）

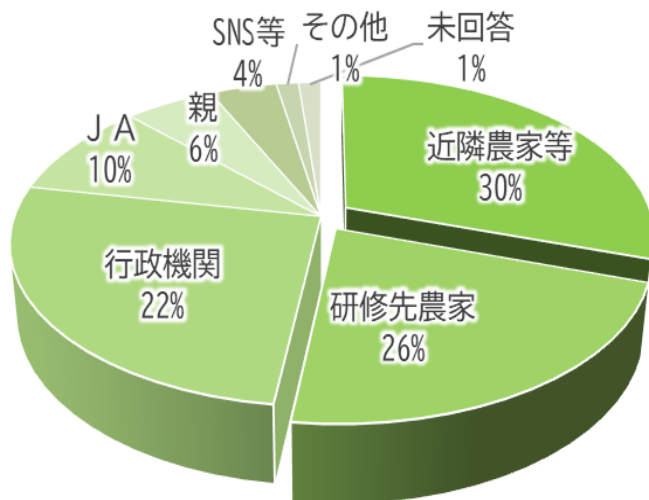
4 就農後の営農類型



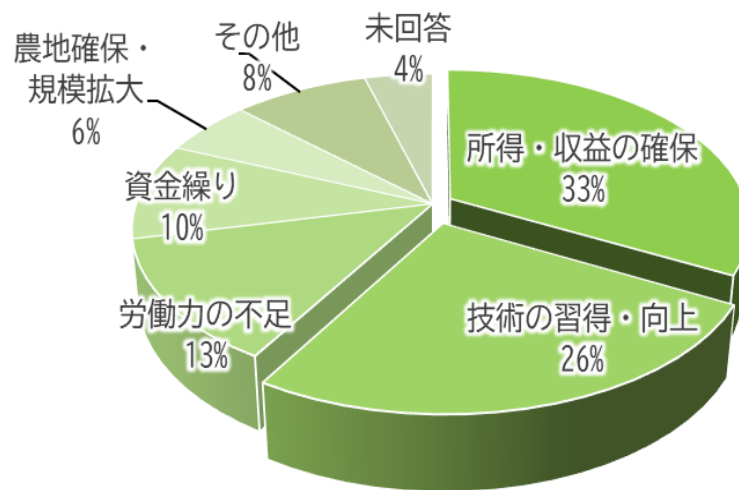
◆選択理由

- ・ なす、ねぎは初期投資も抑えられ収益性が高い（露地野菜）
- ・ 研修先がさつまいも農家で需要ある野菜だから（露地野菜）
- ・ 配偶者の実家で、前からレンコンを栽培していた（露地野菜）
- ・ 妻の希望（施設野菜）
- ・ 大学で果樹の勉強をし、興味があったため（果樹、露地野菜）
- ・ 祖父の下で就農した（普通作）
- ・ 経営的に花き収益が上げやすい（花き）
- ・ 町で茶畑の美しさに魅了（茶）

5 就農後の相談相手

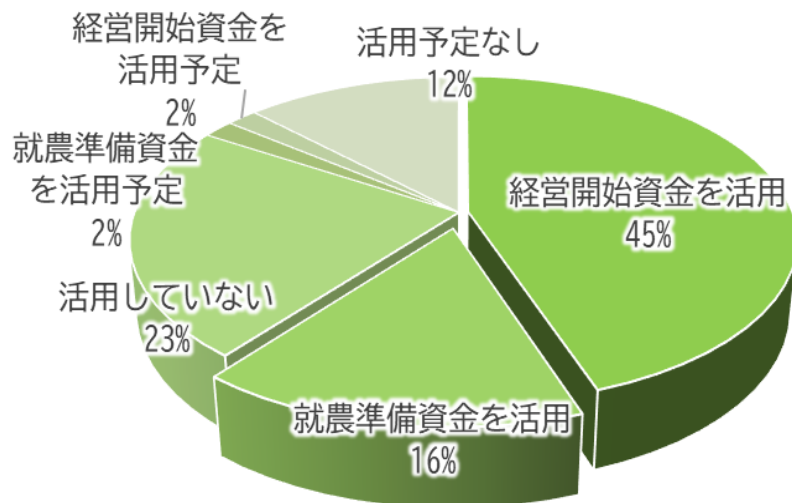


6 農業経営の課題



(参考) 新規就農者アンケート結果 (4)

7 国の支援金（就農準備資金・経営開始資金）の活用



Q その他の支援金等の活用

- ・ いばらきのトップランナー活用事業（県）
- ・ 中古農機具購入支援事業（市）
- ・ 水稻病虫害防除薬剤補助事業（市）
- ・ スマート農業推進事業（市）
- ・ 青年等就農資金（日本政策金融公庫）
- ・ 小規模事業者持続化補助金（商工会議所）

